

沢海地区 — ワンド浚渫、第1段階施工後のモニタリング計画 —



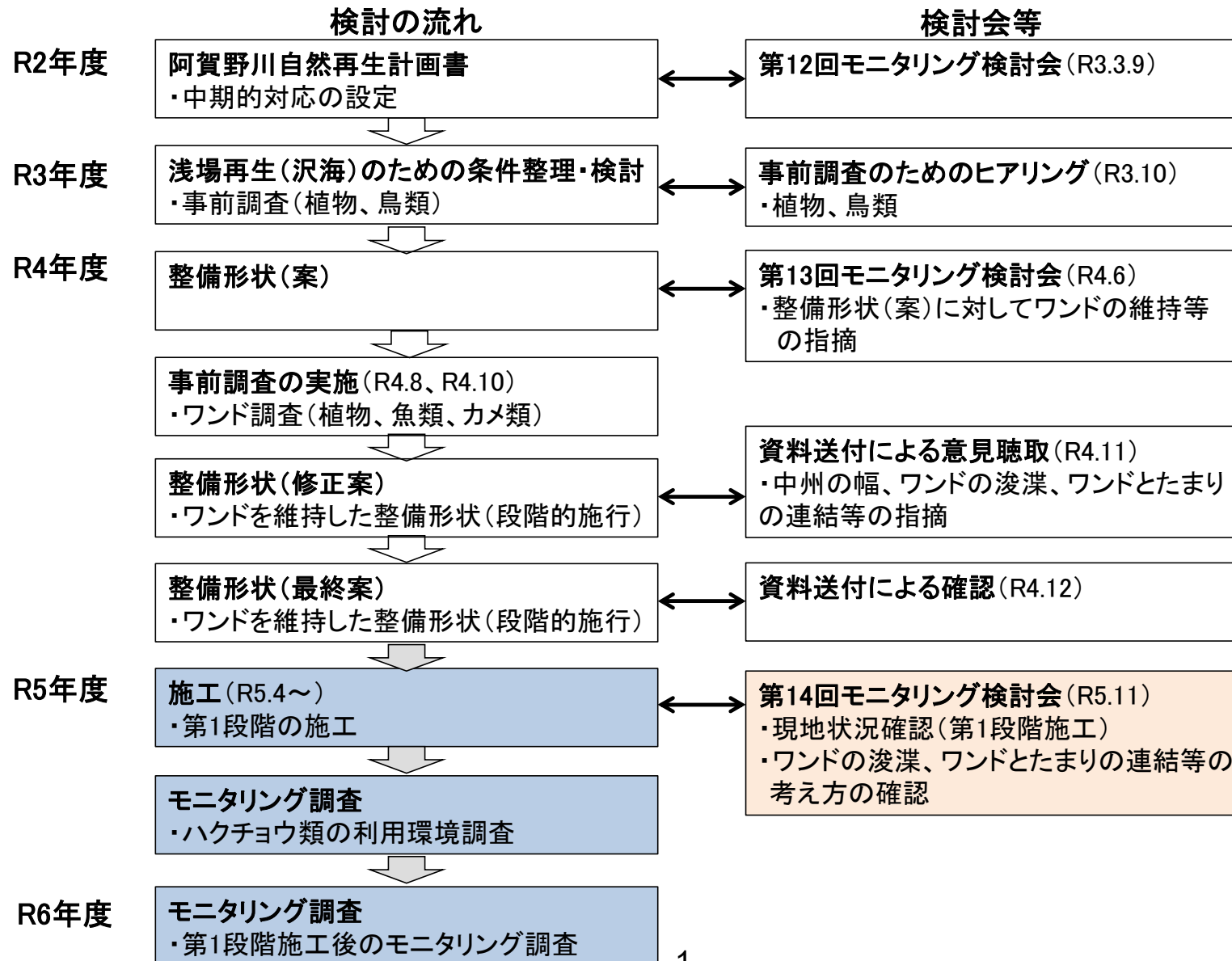
阿賀野川河川事務所

令和5年11月30日

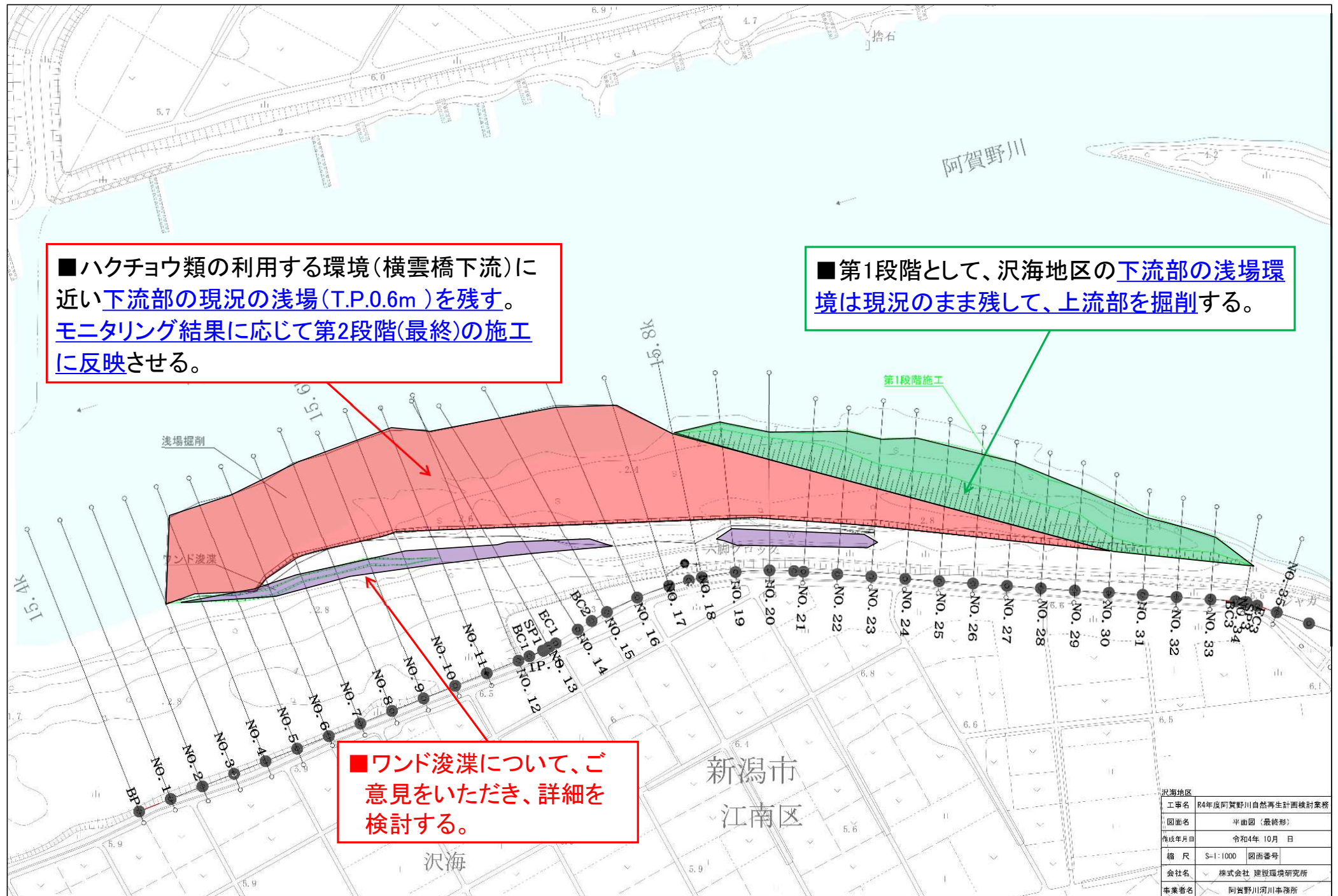


1. 沢海地区の検討の経緯

- 令和4年度は、第13回検討会(令和4年6月開催)でのご指摘を踏まえ、ワンドを維持する整備形状を再検討。
- その後、令和4年11月に資料送付にて修正案をご確認いただき、いただいたご意見踏まえて最終案を決定。
- 令和5年度は、第1段階の施工に着手。



2. 沢海地区の整備形状(最終版)

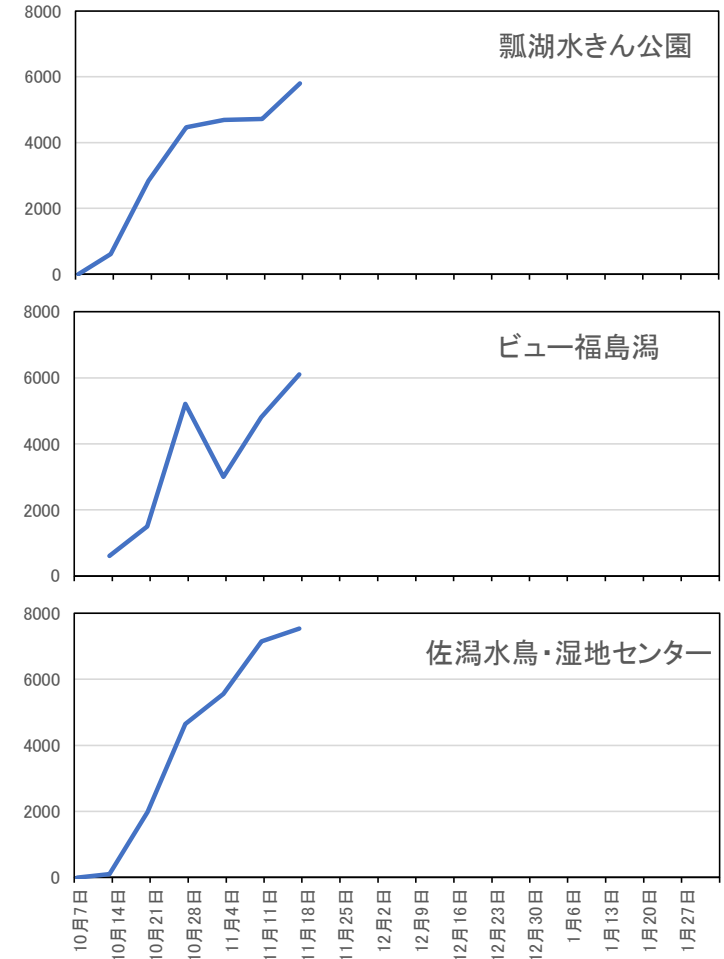


3. 沢海地区のモニタリング計画(案)

- 令和5年度は、**ハクチョウ類の利用環境調査を目的**として、物理環境調査、およびハクチョウ類・その他鳥類調査を実施予定。
- 第1段階施工完了予定の令和6年度には、**施工後の効果確認のための調査**を予定。

調査項目	調査内容	R5 実施予定	R6 実施予定
①水位・流速等の流況観測	・掘削した箇所および掘削していない箇所の流速・水深 ・沢海地区の水位	流速・水深： 冬季 水位： 通年	流速・水深： 冬季 水位： 通年
②ハクチョウ類の利用状況調査※1	・ハクチョウ類の種・個体数 (R5河川水辺の国勢調査の結果も活用) ・ハクチョウ類が利用している箇所の流速、水深	冬季(沢海地区以外)	冬季(沢海地区含む)
③鳥類調査	・サギ類をはじめとした鳥類の種、個体数 (R5河川水辺の国勢調査の結果も活用)	冬季	春季
④植生調査	・水際の植生調査(頻度法)による出現種の把握	—	秋季
⑤ワンドの環境調査	・ワンドの環境調査(水深、水質等) ・ワンドの生物調査(魚類、カメ類)	—	春季・秋季
⑥侵入動物調査	・キツネ等の外敵の確認	—	冬季
⑦ヤナギ類調査	・ヤナギ定着期の浅場の水深 ・ヤナギ類の実生の分布調査	—	初夏

【参考】周辺の潟におけるハクチョウ類の確認状況



聞き取りおよびHPより

例年並みの飛来数
(概ねピークと推定)

※1: 沢海地区に加え、ハクチョウ類の**集団分布地4か所**でも調査して**ねぐら環境の物理条件を把握**。



(ご意見5-②) 下流ワンドの浚渫深はどのように設定したか？

- ・阿賀野川に実在するワンドは、中央部が1.5m以上と深く、水際には水生植物が生育する形状であり、この水生植物の周りが魚類の産卵場等となっている。
- ・また、これまで再生してきたワンドも、実在ワンドにならない、中央部を深く、水際部を緩傾斜にしている。
- ・よって沢海地区では、第2段階の整備で、閉塞を引き起こしている底泥を除去し、通水性を回復させるとともに、現在の抽水植物の代替として、水際を緩勾配にすることで、水生植物の生育基盤を確保することを考えている。

■ 阿賀野川に実在するワンドの形状

- ・10年以上維持されているワンドはの水深は約1.5m程度である。

表.維持されているワンドの最大水深(H24整理)

ワンド横断面	最大水深(m)		
	最小年	平均	最大年
25.4k	1.2	1.8	2.3
30.2k	0.9	1.5	2.3
31.8k	0.7	1.2	1.9
3断面平均	-	1.5	-

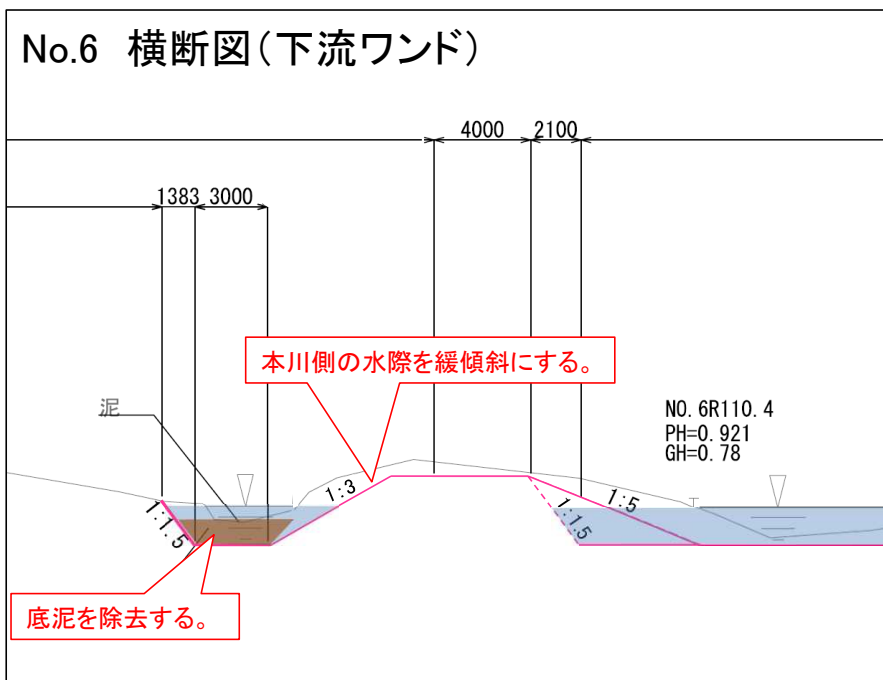
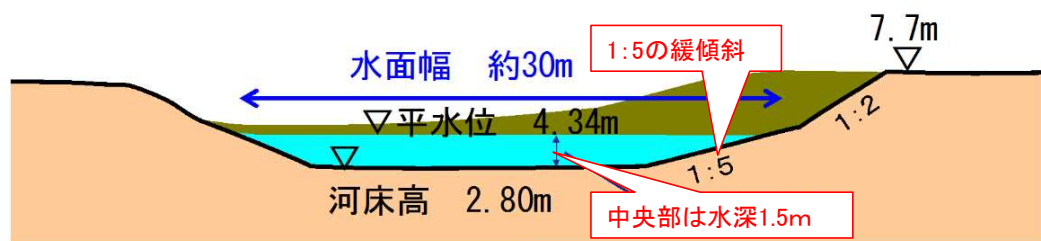


ワンド 阿賀野川25.4k付近 (H23.9撮影)

■ 沢海地区のワンドの改善

- 底泥を除去し、ワンドの水際部を緩勾配にすることで、水生植物の生育基盤を確保する。

■【参考】再生したワンド（高山地区、H26整備）の形状



(ご意見5-③) 上流たまりと下流ワンドを連結できないか？

- ・外敵侵入防止の水路となりうるため、第2段階の整備で下流ワンドと上流たまりを連結させることを考えている。
- ・具体的には、水深0.3m以上、幅5m以上を確保する形とする。(R4.6 第13回モニタリング検討会資料より)
- ・あわせて、本川側の水際は、水生植物が定着できるよう、1:3程度の緩傾斜に修正する。

■ハクチョウ類の外敵侵入防止の条件

- ・外敵は阿賀野川で確認されている肉食中型哺乳類としてキツネを想定
- ・外敵の侵入を阻む水路もしくは広い水面
 - ⇒水深30cm以上(歩いて渡ることのできない水深)
 - ⇒水面幅5m以上(ジャンプして渡ることのできない水面幅、頭胴長の10倍程度を想定)



出典: 日本動物大百科 第1巻 哺乳類 I, 株式会社平凡社

第13回モニタリング検討会資料(R4.3より)

